

基本方針 1 「確かな学力」を身に付ける教育を推進します。

1 -

小学校児童支援推進事業【教職員課】



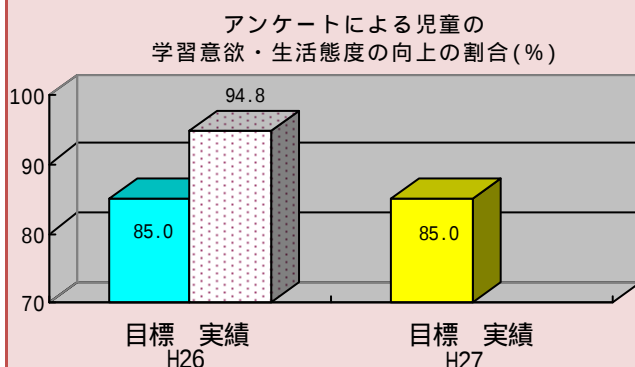
事業概要

児童指導担当教員や教育相談コーディネーターがいじめや問題行動、不登校などに対して、きめ細かな対応ができるように、小学校に非常勤講師を派遣しました。

平成26年度実績

派遣人数 16人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

非常勤講師の派遣により、児童指導担当教員や教育相談コーディネーターがきめ細かな対応ができるようになり、課題を抱えた児童に対して効果的な対応ができました。

今後も、落ち着いた学校生活や学力の向上を図るため、事業を継続していきます。

委員からの意見

・小学校における課題の多様化、課題をもつ児童の増加に対応するためには、児童指導担当教員や教育相談コーディネーターのきめ細かな対応が必要です。非常勤講師の派遣により、問題行動などへの対応時間を生み出すことができることから、今後も、非常勤講師の増員など一層充実した内容となるように望みます。

・多くの手が入ることにより、児童に対してきめ細かな対応ができていることは大変ありがたいと思います。今後も落ち着いた学校生活・学力向上のため継続して事業を行ってほしいと思います。

・非常勤講師の派遣により、児童指導担当職員や教育相談コーディネーター担当が児童に対してきめ細やかな対応ができるばかりでなく、学校全体がいじめや問題行動、不登校などに対して臨機応変に対処できたものと思います。こうした人的支援の事業は、学校経営にいい影響を及ぼしていくと考えますので、今後も継続して人的派遣の拡充を希望します。

・少人数学級の編制、教科担任制の推進、課題を抱えた児童への対応などを含んだ支援事業であり、多くの児童に平等に「確かな学力」を身に付けさせる重要事業の一つであり、成果も期待通りですので、今後とも一層強化して継続していくことが望ましいと考えます。



事業概要

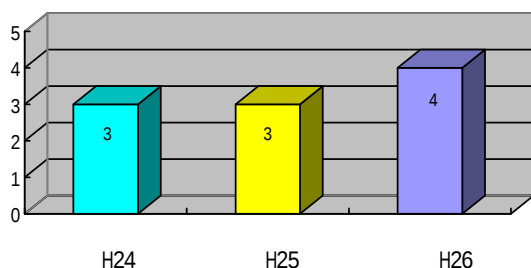
生徒指導上課題のある中学校において、生徒指導担当教員の授業の代替や複数での指導を行い生徒を支援するため、非常勤講師を派遣しました。

平成26年度実績

派遣人数 4人

過去3年の実績

中学校への非常勤講師の派遣人数(人)



成果と課題・今後の取組等

非常勤講師の派遣により、課題のある生徒に対して効果的な指導などを行うことができました。

平成27年度は、事業が廃止になりますが、新たな事業として、中学校1年生を35人学級編制とし、きめ細かい指導を行い、学力向上と不登校や暴力行為などの問題行動の減少を目指すため『中学校少人数学級実施事業』を実施します。

委員からの意見

・学習意欲や理解力に課題のある生徒に対しては、丁寧な声かけなどを通して、意欲を喚起する必要があります。この事業によって、非常勤講師が担任と連携して、効果的な指導ができたと思われます。問題行動への対応としては、人的支援が効果的であると考えます。

・新規事業においても非常勤講師の存在は必要だと考えますので、新規事業の中でも非常勤講師の派遣も視野に入れた事業展開を望みます。

・課題のある中学校に非常勤講師を派遣して生徒を支援することによって、適切な生徒指導が大いに期待できます。教員の負荷が軽減されることも期待できます。

平成27年度は、この事業は廃止されるようですが、学力向上を目指したり、課題を持つ生徒を適切に指導したりするためには、本生徒支援事業は不可欠であると考えます。

1 - 元気アップスクール推進事業交付金(小学校・中学校)【学校教育課】



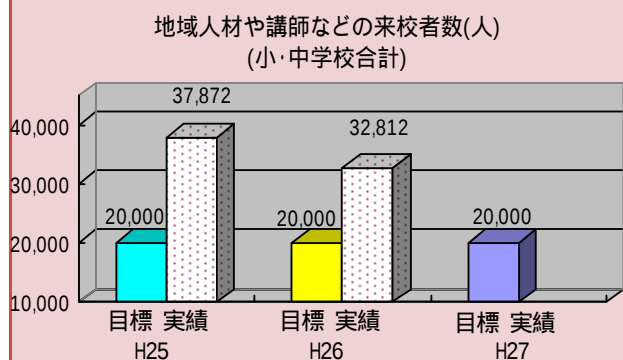
事業概要

市立小・中学校が地域との^{きずな}絆を大切にした特色ある学校づくりを推進するため、各小学校からの申請に基づき、必要な経費を交付しました。

平成26年度実績

交付校 市立小・中学校全 36 校
ボランティアなど来校者数 32,812 人
(小学校 27,230 人、中学校 5,582 人)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

地域の協力を得て、各学校の特色ある事業展開を推進することができました。

また、学習支援や読書のボランティアなどの活動を通して、児童・生徒の学習意欲の向上を図ることができました。今後も、「特色ある学校づくり」のために事業を実施します。

委員からの意見

- ・特色ある学校づくりのためには、地域のもつ教育力の掘り起こしや活用が大切であると考えます。本交付金の活用によって、地域人材や地域の教育資源の活用ができ、学習内容をより身近に興味を持って学ぶことが可能となります。このことで地域への理解が深まり、ひいては特色ある学校づくりにつながります。今後とも、本市教育の柱として継続していただきたいと思います。
- ・地域との連携は児童・生徒・保護者にとって、ますます重要になってくると思います。さらに地域とともに特色のある学校づくりが推進できるように継続した事業支援を望みます。
- ・本事業によって学校は特色ある活動が展開でき、地域の人材活用やその学校ならではの行事、児童・生徒の学力向上に寄与できたと思います。実績内容を見ても「目標値を上回っていること」から、有意義な成果を得られたと判断します。今後も「特色ある学校づくり」のために、元気アップスクール推進事業交付金の継続を希望します。
- ・各小・中学校が独自の特色ある学校づくりを推進することは、大変重要であると考えます。目標を大きく上回る来校者数を得ており、関心の高さを感じます。発展的に継続することが望ましいと考えます。
- ・本事業は学校の特徴に合わせて、学校が独自に考え使える予算なので、特色ある学校づくりに貢献できる事業だと思います。予算は今後も確保すべきだと思います。

	事業概要
	市立小・中学校がより良い教育活動の実践や特色ある学校づくりを推進するための研究活動を行うために、交付金を交付しました。
	平成26年度実績
交付校 市立小・中学校全 36 校	

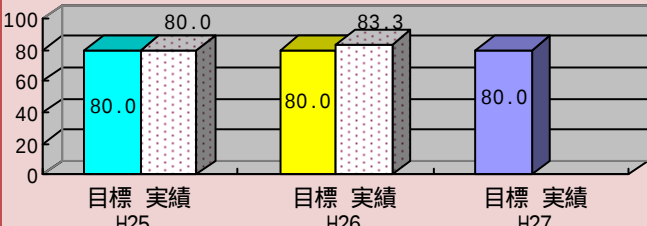
成果と課題・今後の取組等

各学校の特色ある事業展開や教員の資質向上に資する研究活動を推進することができました。今後も、地域との連携・信頼関係を基盤とした各学校の教育の質の向上のため、事業を推進します。

委員からの意見

- ・児童・生徒に質の高い教育を行うためには、教師の研修が不可欠です。各校では、年度ごとにテーマを設けて、教育課題などの研究を進めています。このことが、教師の指導力の維持や学校の教育力の保持につながっていると思います。今後も継続していただきたいと思います。
- ・本事業は、各小・中学校の特色ある学校づくりを推進して行くための基本となる交付金であり、特に教員の資質向上の研究活動事業として大事な役割を果たしています。今後も継続し、充実した事業となることを望みます。
- ・特色ある学校づくりのために研究活動を行うことは大いに推進していくべきことであり、継続することを望みます。

	事業概要 小・中学校 9 年間を見通した教育課程の編成及び指導方法の工夫改善を通して、学力向上に向けた取組を推進しました。 平成 26 年度実績 児童・生徒の「確かな学力」の向上に向けて、市立小・中学校全 36 校で小・中合同研修会を延べ 25 回実施し、実践的な研究を進めました。
---	---

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
研究指定校への年度末アンケートによる 小中一貫教育の充実度 (%)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H25</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr><tr><td>H26</td><td>80.0</td><td>83.3</td></tr><tr><td>H27</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	H25	80.0	80.0	H26	80.0	83.3	H27	80.0	80.0	平成 25 年度から引き続き、全ての中学校区において学力の向上につながる小・中合同の授業研究や研修会を積極的に実施しました。 今後も、中学校区ごとに地域の実情を踏まえた義務教育 9 年間を通した「めざす児童・生徒像」を小・中学校教職員が共有し、効果的なカリキュラム編成などについて実践・検証をする必要があります。
年度	目標 (%)	実績 (%)											
H25	80.0	80.0											
H26	80.0	83.3											
H27	80.0	80.0											

委員からの意見

- ・ 地域の実情を踏まえ、義務教育 9 年間を見通した教育の在り方を模索していくことは、意義のあることだと思います。小・中学校の教員が「めざす児童・生徒像」を共有し、地域の実情を踏まえた効果的なカリキュラム編成による教育が期待されます。小学校の役割、中学校の役割を明確にしつつ、それぞれの指導の特色を相互に理解を深める中で、一貫教育の良さを追究していく必要があると思います。
- ・ 小・中学校 9 年間を見通した中学校区ごとの研究は、厚木市独自の事業として意義ある成果を上げています。中学校区ごとの合同研究会や意見交換会の開催により、9 年間の教育課程の編成の見直しやその共有などの研究に取り組んでいると聞いています。確かな学力を定着させるためには、発達段階に応じた一貫性のある目標を設定し、一步一步進めていくことが大事だと思います。児童・生徒にとって小学校から中学校への移行がスムーズにいくためにも、今後も小・中学校の教員が連携して課題を共有し、中学校区ごとの実情を踏まえた事業の継続を望みます。
- ・ 児童・生徒にとって、小学校から中学校への節目において、勉強がつかないのは大きなマイナスです。小・中学校が連携することは重要であり、継続して取り組むことが必要です。成果実績も目標を上回っており、成果が得られています。

小中一貫教育推進事業【教職員課】



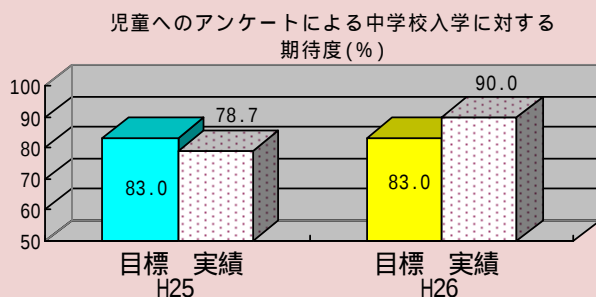
事業概要

教育委員会が指定した市立小・中学校において、中学校教員が学区の小学校で授業をすることで小・中学校の連携を図り、小中一貫教育を推進するため、中学校に非常勤講師を派遣しました。

平成26年度実績

派遣人数 2人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

小・中それぞれの教育の実際を知り、連携を深め、また、中学校の学習内容を踏まえた関連性のある学習指導ができたことにより、小中一貫教育を推進する上で、大きな効果がありました。

平成27年度は、小中一貫教育研究事業と統合し、引き続き小・中一貫教育を推進します。

委員からの意見

・非常勤講師の派遣により、中学校教員が、学区の小学校で授業を行うことができ、中学校へ入学してくる児童の状況の把握ができたと思います。また、児童は中学校の授業の雰囲気をつかむことができたと思います。今後は、小学校教員との連携を密にして、十分な理解のもと、一人一人に応じた指導にしていく必要があると思います。

・小・中連携を实践する事業であり、大いに推進することが望ましいと考えます。



事業概要

放課後の教室などを利用し、市立小学校3年生の国語及び算数の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、復習を中心とした個別の学習指導を行うあつぎ元気塾講師を配置しました。

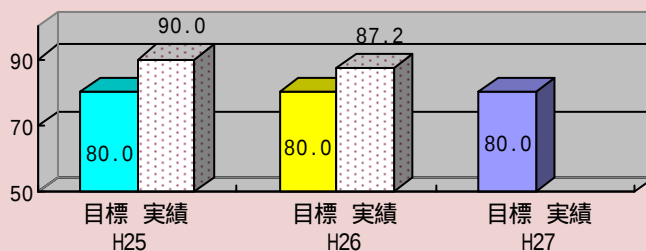
平成26年度実績

実施校 市立小学校 22 校

対象児童数 839 人

成果指標

児童へのアンケートによる児童の学習意欲の向上と基礎的・基本的な学習内容の定着度(%)



成果と課題・今後の取組等

学習習慣の確立や基礎的・基本的な内容の定着を図ることができました。

今後も、基礎的・基本的な学力の定着を図るため、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな学習指導を実施します。

委員からの意見

・放課後に市立小学校3年生を対象に実施されていて、児童へのアンケートによる実績値が高い水準を維持している点で、児童・保護者から良い評価を得ていると考えます。一人一人の状況に応じた学習指導を行うためには、学校教員との情報交換の場や時間の確保が必要です。また、放課後における指導の在り方についての研修が必要だと考えます。

・本事業については、保護者の皆さまから好評のようです。基礎的・基本的学習が本格化していく市立小学校3年生にとって復習中心の学習は、今後高学年に向けての大事な学習になります。既習学習の定着は、保護者の皆さまにとっても関心があることだと思います。

また、6時間目に行う担任とは違う先生からの指導も効果的な面があると聞いています。保護者の皆さまからの要望が高いので、本事業の継続を望みます。

・市立小学校3年生の国語と算数の2教科に限定されていますが、多くの児童が参加しており、成果が得られたと評価します。継続することを期待します。



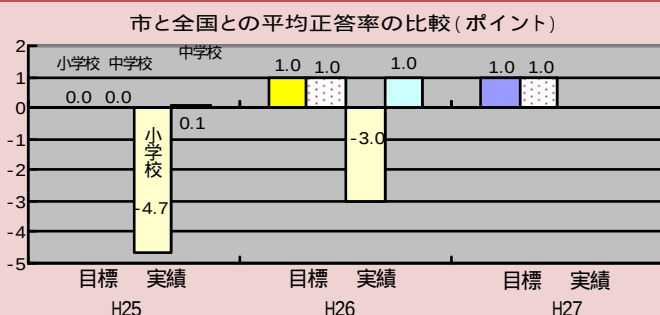
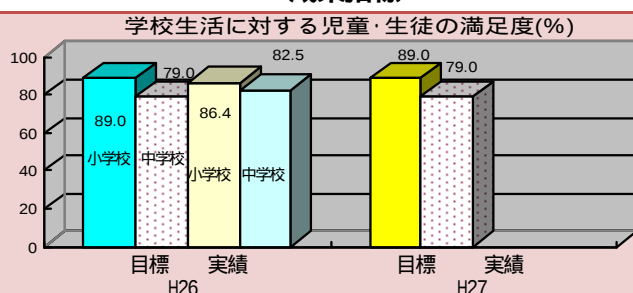
事業概要

「確かな学力」を身に付ける教育を推進し、基礎的・基本的な知識や技能の習得、個に応じた指導の充実などの普及・定着などにつなげるために、市立小学校5年生及び市立中学校2年生を対象に調査を実施しました。

平成26年度実績

児童・生徒の学力や学習状況を継続的に把握するため、小学校5年生及び中学校2年生を対象に、厚木市独自の学力学習状況調査を実施しました。

成果指標



成果と課題・今後の取組等

学力学習状況調査などの結果を小・中学校両者で分析していますが、さらに小・中学校の教育課程の構造的理解を深め、授業力向上を図り、分かる授業を展開できるように研究を進めていきます。

学力学習状況調査などの結果を指導の改善にいかすことにより、学ぶ意欲の育成も含めて、「確かな学力」の向上を目指します。

委員からの意見

・平均正答率の前年度との比較では、実績値において小・中学校とも向上が見られるのは、小・中学校と教育委員会関係課などの努力の表れであると思います。結果の分析を十分行い、つまづきやすい学習内容に対する効果的な指導の在り方を、各校の実情を踏まえ、研究していく必要があります。

・児童・生徒の学力・学習状況を継続的に把握し指導の改善を行うことは「確かな学力」向上を目指すために必要と考えます。毎年実施は予算的にも厳しいかもしれませんが、継続した事業を望みます。

・本事業を実施・継続することによって、結果を基に児童・生徒の実態把握、指導者側による調査結果の統計的な把握検討・分析、授業の改善、次への目標の設定など意義のある事業だと考えます。確かな学力向上を目指していくための評価と課題の改善、児童・生徒の自己評価として、本事業の実施・継続を希望します。

・学力・学習状況を把握しておくことは、「確かな学力」が身に付いたことを確認する上で不可欠です。指標実績値が前年度に比べて改善していることが確認できています。



事業概要

充実した教育活動を推進するため、市立小・中学校に学カステップアップ支援員を派遣し、小学校では学級担任の補助及び学習支援、中学校では数学と英語を中心とした学習支援を行いました。

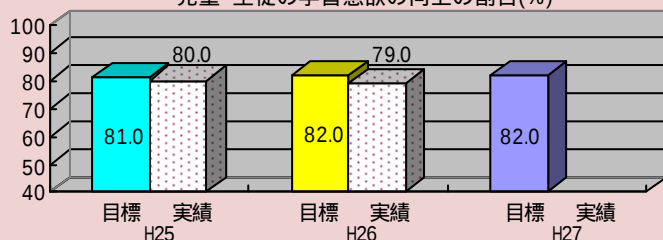
平成26年度実績

実施校 市立小・中学校全 36 校

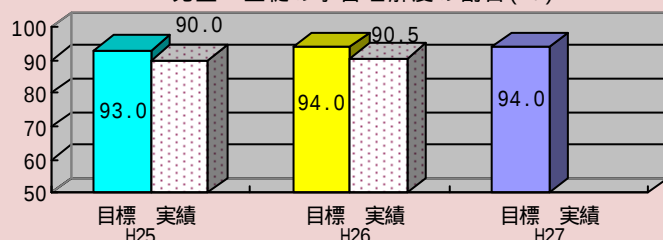
派遣人数 小学校 33 人、中学校 38 人

成果指標

児童・生徒の学習意欲の向上の割合(%)



児童・生徒の学習理解度の割合(%)



成果と課題・今後の取組等

児童・生徒一人一人に学習状況に応じたきめ細かな支援を行うことで、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び学習意欲の向上を図ることができました。

今後も、各学校においてきめ細かな支援を行い、個々の状況やニーズに応じて適切な支援を受けられる環境を整備していきます。

委員からの意見

・学カステップアップ支援員の存在は、児童・生徒一人一人の学習を確かなものにするため、学校現場において欠かせない存在となっています。実績値を見ても、児童・生徒の学習理解や学習意欲に貢献していることが分かります。教員との連携をより強固なものにしていくためには、授業前、授業後などの情報交換が大切であると思います。このことを踏まえて、今後ともこの事業を継続していただきたいと思います。

・児童・生徒一人一人に学習状況に応じた支援は、児童・生徒の学習意欲向上にもつながり「確かな学力」の向上につながると思いますので、継続した事業を望みます。

・学カステップアップ支援員派遣事業は、現在なくてはならない事業です。特に小学校において入学したての一年生にとっては、きめ細かな支援ができありがたい存在です。また基礎的・基本的な知識の習得や学習意欲の向上・体験学習、高学年の実習活動に支援員の存在は必要不可欠のものになっています。また、校外学習の引率においては、児童の安全面からの配慮からも、大事な位置を占めています。小・中学校で 71 人を配置しており、今後も継続するとともに、さらに人的配置の拡充が重要と判断します。

・「確かな学力」を身に付ける教育の多くの方法の中で、最も有効なものが本事業であると考えます。成果指標は目標値に達していないので、各学校でより効果的な支援になるように創意工夫していくことを望みます。



事業概要

国際理解の素地を培い、コミュニケーション活動を中心とした英語教育の推進を図るため、市立小・中学校に英語を母国語とする外国語指導助手を配置しました。

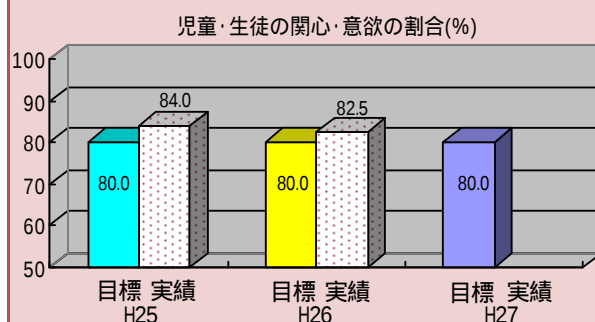
平成26年度実績

配置校 市立小・中学校全 36 校

配置人数 小学校 4 人、中学校 7 人

配置日数 小学校 706 日、中学校 1,133 日

成果指標



成果と課題・今後の取組等

委託業務のため、外国語指導助手への指示は、受託業者を通じて指示を行わなければならない、その場面に応じた柔軟な授業の展開をすることについては課題があります。

児童・生徒の授業が円滑かつ効果的に進められるよう、具体的な場面を想定した事前確認など綿密な連絡を行い、学校の指導方針に沿った対応の充実を図ります。

委員からの意見

・ALTの担任とは違う個性的な指導は、児童・生徒に好評です。特に、活動場面を多く取り入れている、楽しい雰囲気の中で授業が展開されているという印象があります。教科としての英語となると、カリキュラムに基づいた指導を行う必要があるため、ALTの指導を英語科の中で、どのように位置付けていくかを十分研究する必要があると思います。そのためにも、事前の打ち合わせなどを十分行い、カリキュラムに位置付けていく必要を感じます。

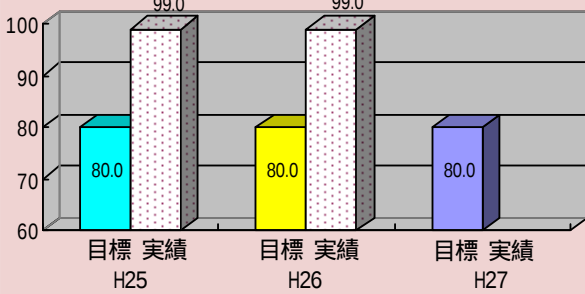
・ネイティブな英語に触れることは児童・生徒にとって貴重な時間と考えます。年度当初から安定した授業が進められるよう指導側の体制などを含め、更なる充実した事業展開を望みます。

・英語を母国語とする外国語指導助手を配置することは、高い効果が期待でき、児童・生徒の意欲も高まると思われます。しかし、前年度と同じ課題（外国語指導助手への指示は、受託業者を通じて指示しなければならない、柔軟な授業の展開についての課題）が残っています。課題解決に向けて更なる工夫を望みます。

厚木市 S E L 教育基金事業【学校教育課】

	事業概要
	「確かな学力」を身に付けた心豊かで健康な児童・生徒を育成するため、厚木市 S E L 教育基金を活用しました。
	平成 26 年度実績

- ・携帯型学習機器用学習ソフトを市立小学校全校に配布
- ・おもしろ理科教室の実施 市立小学校全 23 校(23 回)
3 大学、7 企業の協力を得て実施
- ・こども科学賞の授賞式 12 月 14 日(日)

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
学校へのアンケートによる事業の満足度(%)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H25</td><td>80.0</td><td>99.0</td></tr><tr><td>H26</td><td>80.0</td><td>99.0</td></tr><tr><td>H27</td><td>80.0</td><td>99.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H25	80.0	99.0	H26	80.0	99.0	H27	80.0	99.0	こども科学賞の応募件数が年々増加し、平成 26 年度は開始当初から比べると 410%増の 1,061 点となっています。引き続き児童・生徒の科学への興味・関心が高められるよう取組を継続します。 今後も理科好きの児童・生徒を育成するための「おもしろ理科教室」を継続して実施する予定です。
年度	目標	実績											
H25	80.0	99.0											
H26	80.0	99.0											
H27	80.0	99.0											

委員からの意見

- ・こども科学賞の応募件数が増加しているのは、科学好きの児童・生徒が増えている証であり、好ましいことです。ただ、応募数に着目することよりも、内容的な深まりを期待しています。今後は、児童・生徒ならではの疑問を基にした調査・研究や自分なりの解決法で進めた研究などが、発表される場になるよう期待しています。
- ・こども科学賞への応募件数が毎年増加していることは、高く評価できます。大学・企業の一層の協力を得て、発展的に継続していくことを望みます。



事業概要

児童・生徒がICTを活用できるように支援するため、パソコンを使った授業の補助などを行う学校ICTサポーターを市立小・中学校に配置しました。

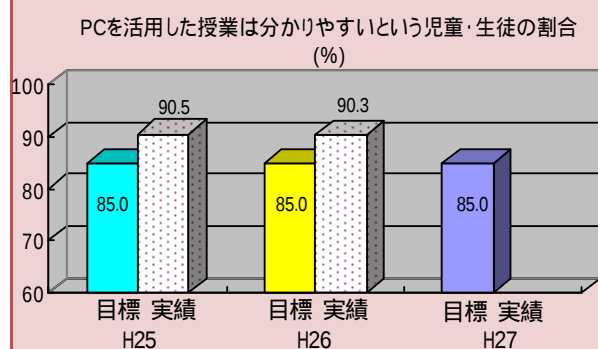
ICT...情報通信技術

平成26年度実績

派遣回数 延べ 426 日

ICT出前講座 7回実施

成果指標



成果と課題・今後の取組等

事業の見直しにより、今後は教職員に対する支援を縮小する代わりに、ICT出前講座の充実によるきめ細かな支援を行い、授業支援など児童・生徒に対する新しい機器環境への支援割合を増加させます。

また、競争性を高めるため、契約方法を見直します。

委員からの意見

・「PCを活用して授業が分かりやすい」と答える児童・生徒の割合は高水準にあり、ICTが効果的に活用された場合の満足感を示していると思われます。どの教科のどのような場面で活用すると効果的なのかを情報交換して、ICTの良さをいかした授業が展開できるといいと思います。今後は、調べ学習での活用においても、児童・生徒がストレスなく活用できるように支援をお願いします。

・ICTを活用した授業の展開は、ICTを専門としない教員にとっては容易なことではありません。継続してサポーターを配置することを望みます。

小学校 I C T 化推進事業 中学校 I C T 化推進事業

【教育研究所】



事業概要

「確かな学力」を身に付けるために、I C Tを活用した授業を展開し、児童・生徒に学習への興味を持たせ、I C Tを活用できる教育環境の向上を図りました。

平成 2 6 年度実績

- ・ 合計利用時間数 全小・中学校 23,899 時間
- ・ 1 校平均利用時間数
小学校 744.7 時間、中学校 520.8 時間

成果と課題・今後の取組等

学校教育の情報化に係る検討委員会において、新たな学校教育に必要とされる情報機器などについて議論されており、今後の機器構成や仕組みづくりをしていくとともに、新たな機器導入の検証を行います。

委員からの意見

- ・ 新たな学校教育に必要な情報機器について、検討委員会の中で論議を進めていくことは必要なことと思います。日進月歩の技術革新がなされる領域であるため、児童・生徒の学習のための機器という視点を明確にして、今後の機器構成や仕組みの研究を進めていただきたいと思います。
- ・ I C T のハードとソフトの進展は著しいので、検討委員会は毎年検討していく必要があると思われます。その上で、効果的に活用できるように環境を整備していくことが肝要であると考えます。

小学校保護者負担軽減事業 中学校保護者負担軽減事業

【学校施設課】



事業概要

保護者の経済的負担の軽減を図るため、小学校においては、図工科、家庭科を中心とした教材などや学級活動、クラブ活動に係る消耗品、備品の経費の一部を、中学校においては、音楽科、美術科、技術・家庭科を中心とした教材などや学級活動、部活動に係る消耗品、備品の一部を公費で負担しました。

平成26年度実績

【小学校】

消耗品費 28,469 千円

備品購入費 82 千円

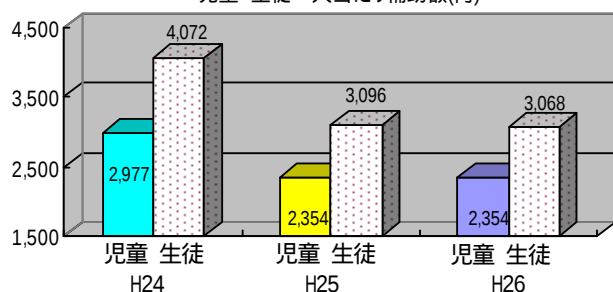
【中学校】

消耗品費 15,742 千円

備品購入費 3,291 千円

過去3年の実績

児童・生徒一人当たり補助額(円)



成果と課題・今後の取組等

保護者が負担する教材教具費のうち、小学校において13.9%、中学校において19.5%を公費で負担することにより、充実した教育活動に資することができました。

今後も、継続して取組を実施していきます。

委員からの意見

・保護者の経済的負担を軽減することは、保護者にとってはありがたいことであり、教育の機会均等の一助となっていると思います。児童・生徒も自分の作った作品の素材が、公費によるものと理解すれば、それを大切にする心情も育つと思われます。児童・生徒、保護者、学校への本事業の効果的な周知をお願いします。

・保護者にとって大変ありがたい事業ですので継続を望みます。学校からの諸経費一覧の下に公費負担について掲載されていましたが、現状のままで掲載が妥当と思われます。

【基本方針 1 に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○厚木市の確かな学力を身に付ける教育を推進するための事業は、学校プランに応じた経費の交付や各種人的支援によるきめ細かな指導や課題への対応、ICTの活用、小中一貫教育の研究、放課後の充実を図る事業などがあり、各小・中学校の状況に応じた効果的な展開がなされていると思います。特に学校の特色づくりを推進する元気アップスクール推進事業は、本市教育行政の核となるものであり、確かな学力育成の鍵となる事業です。今後も学力の向上に向けて、各小・中学校への経費の充実及び人的支援事業の継続・強化を図っていただきたいと思います。また、学力の要素として挙げられている思考力・判断力・表現力などを育成するための授業の在り方などについて、研究を深めていく必要があると思います。

○厚木市では確かな学力を身に付ける教育を推進するために、多くの事業と予算を確保しています。そして各小・中学校においては、市の事業や予算が意義あるものとなって、「特色ある学校づくり、諸状況にあった学校づくり」が展開され、18の事業一つ一つからも大きな効果を上げていると実感しました。特に人的支援は、児童・生徒の学習状況にきめ細かな支援となって、授業支援、児童理解において有効であったと考えます。平成26年度の実績値から見ても有効である数値を示しています。今後も確かな学力の向上に向けて、予算の確保・人的支援事業の充実、継続を希望します。

2 -

小学校学校給食施設整備事業 中学校学校給食施設整備事業

【保健給食課】



事業概要

老朽化した学校給食センター及び小学校単独調理場未整備校を含めた学校給食施設の整備方針を策定し、文部科学省の「学校給食衛生管理基準」に基づいた施設整備を行います。

平成26年度実績

老朽化した北部・南部学校給食センターと単独調理場の現状を踏まえ、今後の学校給食施設の整備方針を策定するため、外部の専門機関に調査委託をしました。

その結果、仕様書に基づいた学校給食施設の整備に関する報告を受けました。

成果と課題・今後の取組等

北部・南部学校給食センターの建て替えについて、既存敷地での建て替えをした場合、建設時の給食提供方法の検討や近隣住民への配慮が必要となることから、新規用地を取得し建設することも視野に入れ検討する必要があります。

今後については、調査結果を基に、学校給食施設整備に伴う市民参加手続きを行い、学校給食施設の整備方針を策定します。

委員からの意見

・給食への異物混入などがメディアを賑わす昨今です。安全な給食を提供するのは、教育行政の重要な事業になっていると思います。北部・南部学校給食センターの建て替えについて調査委託をし、今後の学校給食施設の整備方針を策定するのは、適切な道筋だと考えます。単独調理場の充実も併せて、検討していただきたいと思います。

・学校給食施設の整備方針を策定したことにより、食育教育が叫ばれている中、施設整備という大規模な事業に向けて、今後の方向性に期待しています。

・北部・南部学校給食センターの建て替えに向けて、計画的に準備が進められています。児童・生徒に安全な給食を提供できるように、速やかに完成することを望みます。



事業概要

児童・生徒とその保護者などが抱える問題の解決のため、来所相談を始め、相談員の家庭訪問・学校への派遣・配置などによる相談活動を行いました。

平成26年度実績

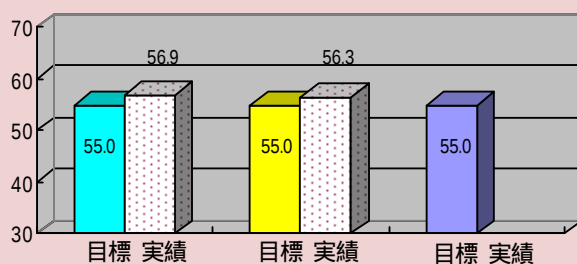
- ・来所相談 4,732 件
- ・電話相談 439 件
- ・家庭訪問相談 604 件
- ・メール相談 1 件
- ・小学校スクールカウンセラー相談 3,879 件
- ・学校コンサルテーション 113 件

数値はすべて延べ数

上記の相談活動を通して、児童・生徒及びその保護者に対する支援を実施しました。

成果指標

継続相談終結率 (%)



継続相談終結率とは、継続的に来所して相談したケースの中で、その年度内に相談が終了したケースの割合です。

成果と課題・今後の取組等

小・中学校との積極的な連携に加え、教育ネットワークコーディネーターによる医療・福祉との連携支援を行い、複合的な課題のあるケースに対応してきました。

相談内容は年々深刻化・複雑化しており、今まで以上に時間が掛かることから、今後も青少年教育相談センターでの対応能力向上を図るとともに、小・中学校や保護者に対して、発達課題への理解と対応に関する相談や研修などを積極的に進めていく必要があります。

委員からの意見

・児童・生徒とその保護者が抱える様々な問題の解決に向けて、来所相談を始め、電話、スクールカウンセラー、学校コンサルテーションなどを通して支援がされています。内容が深刻化、複雑化している中で、福祉や医療との連携が不可欠になってきている実態があり、学校を始め、関係各課等の努力にもかかわらず、相談終結率は伸び悩んでいるように感じます。今後も、小中学校や医療、福祉などとの連携を深め、個々の状況ににあった対応を進めていただきたいと思います。

・相談内容が年々深刻化・複雑化してきており、今後も件数の増加が予想されます。センター対応能力強化を望みます。

・相談内容が複雑・深刻化しながら、かつ相談件数が前年度に比べて大幅に増加しています。継続相談終結率が 56.3%と高く、十分に機能しており、高く評価できると思います。児童・生徒の健全な成長のために、今後とも諸機関と連携して対応することを望みます。



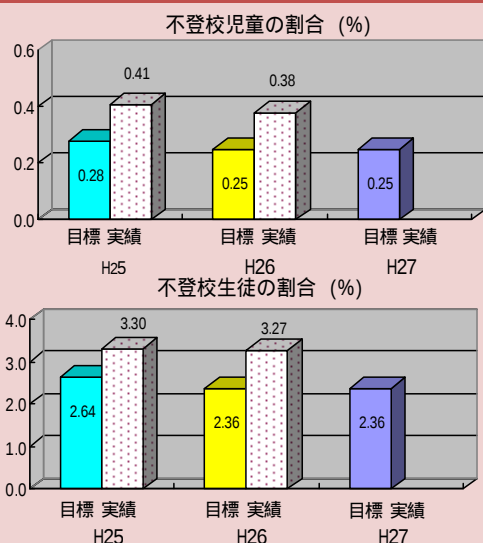
事業概要

不登校を未然に防ぐため、毎月実施する学校計画訪問を通して状況把握を行い、課題解決に向けた様々な対策を学校と連携しながら実施しました。

平成 26 年度実績

学校教育指導員による計画的な学校訪問を実施して学校から情報を収集し、各学校の状況に応じた指導・助言を行いました。（年間 360 回）

成果指標



不登校児童・生徒の割合は、全児童・生徒総数に占める不登校の児童・生徒数の割合であり、数値が低いほど不登校が少ないとされます。

成果と課題・今後の取組等

平成 26 年度も全小・中学校で不登校対策の重点を決めて取り組む体制を組み、不登校の未然防止の重要性や不登校児童・生徒に対する教職員の理解を深めてきました。

今後も、児童・生徒の心の問題に寄り添いながら、不登校の早期発見・早期対応、未然防止に一層努め、更なる不登校の減少を目指して、学校との連携を密にとりながら事業展開を進めていきます。

委員からの意見

- ・不登校を未然に防ぐため、学校教育指導員による計画訪問を実施し、不登校傾向のある児童・生徒の実態把握と適切な指導助言が効果を上げていると思います。今後も、不登校に起因する様々な問題行動を防ぐ意味から、学校及び関係機関と情報交換や意見交流を行うなど、連携を深めた対応を望みます。
- ・不登校児童・生徒の出現率が県の平均を下回ったという良い方向に展開されているようですので、さらに学校現場との連携を図り未然防止に努めるとともに、一人でも多くの児童・生徒が学校に復帰できるよう継続した事業展開を望みます。
- ・本事業により、学校全体・各担任にとって不登校に対する危機意識を高めていくことにつながります。不登校を未然に防ぐために毎月行っている計画訪問は、課題意識を高め解決に向けての有意義な事業だと思います。平成 26 年度実績値も向上しつつあり、県平均よりもいい実践を上げてきているとのことで、今後も各学校との連携を充実させ、本事業の継続を望みます。
- ・児童・生徒の健全育成のための最重要事業の一つです。学校との密な連携の効果が認められます。不登校児童・生徒の割合はわずかながら減少していますが、依然として目標値には達していないので、継続して取り組む必要があると考えます。



事業概要

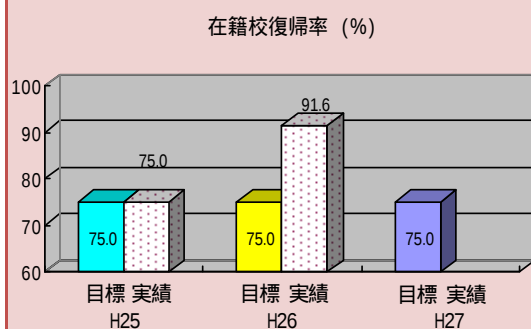
不登校児童・生徒が、小集団での学習や体験活動を通して心の安定を図り、自信を取り戻して学校や社会生活に適応していけるようにするため、個に応じた支援や学習指導を行いました。

平成26年度実績

相談指導教室通室生人数 10人

適応指導ルーム通室生人数 14人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

対人関係に様々な課題を抱えている不登校児童・生徒に対して、体験的活動を多く取り入れた行事やきめ細かな学習指導、小集団活動などによる適応指導を推進してきた成果として、部分登校を含め多くの児童・生徒が学校への登校ができるようになりました。

今後も、安心して居られる居場所としての存在から、更なる学校復帰や社会的自立につながるような指導方法の工夫をし、効果的な事業展開を進めていきます。

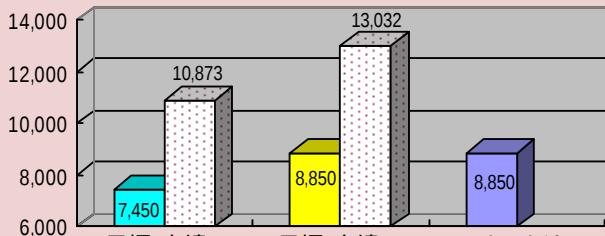
委員からの意見

・適応指導教室は、不登校児童・生徒の居場所としての安心感の中で、個に応じた支援や学習指導が行われることで、児童・生徒が自信を取り戻し、在籍校への復帰が高い割合でなされています。今後も、児童・生徒が自己有用感をもち、社会の中で自立していけるよう、様々な指導を積み重ねていただきたいと思います。

・不登校児童・生徒が部分登校でも学校に復帰できているという良い結果が出ているようですので、さらに指導方法などを工夫していただき、一人でも多くの児童・生徒が学校に戻れるよう継続した事業展開を望みます。

・在籍校復帰率は目標値を超えており事業の成果が高く評価されます。今後も一層工夫して、復帰率を向上させることが期待されます。

	事業概要
	多くの市民に郷土の歴史や文化などを伝えるため、郷土資料館で収蔵している資料などを活用し、展示や講座を開催しました。
	平成26年度実績
	多くの市民に郷土の歴史や文化などを伝えるため、7回の展示会のほか、郷土資料館で収蔵している資料や知見などを活用し、9講座を開講、56回実施しました。

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
日常来館者及び行事参加者人数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H25</td><td>7,450</td><td>10,873</td></tr><tr><td>H26</td><td>8,850</td><td>13,032</td></tr><tr><td>H27</td><td>8,850</td><td>8,850</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H25	7,450	10,873	H26	8,850	13,032	H27	8,850	8,850	展示会、講座の質を向上させていくには、より効率よく、計画的に行うとともに市民のニーズを的確に捉えることが重要です。また、市民協働による展示、講座など市民の力をいかした取組も必要となります。
年度	目標	実績											
H25	7,450	10,873											
H26	8,850	13,032											
H27	8,850	8,850											

委員からの意見

- ・郷土資料館に収蔵されている資料を活用して、展示や講座を実施することで、市民の郷土の歴史や文化に対する興味や理解も向上したものと思います。来館者数や行事参加者数も伸びており、市民のニーズを捉えた内容になっていた証といえます。今後は、小・中学生にも分かりやすい講座などを設置し、郷土への関心を高めていただきたいと思います。
- ・市民が厚木の歴史を知り、厚木という郷土を大切に、誇りに思えるような事業展開を望みます。
- ・郷土資料館は貴重な資料と知識の宝庫であります。その活用は来館者数だけの評価だけでなく、多様な視点における評価も必要だと思います。



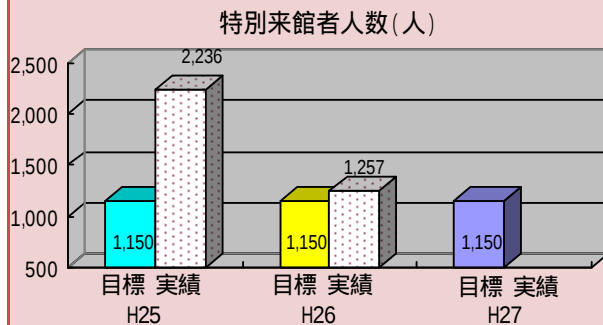
事業概要

多くの市民の皆様に郷土の歴史や文化などを伝えるため、調査や研究などによって得た、歴史・民俗・自然の分野に関する資料を展示しました。

平成26年度実績

「化粧」（11月～12月）を実施し、男女の^{まげ}髷、お歯黒、眉そりといった身体装飾にまで視点を広げ、厚木も含む民俗事例からその理由を追い、解説しました。資料は、館蔵の絵画資料、関連写真などのほか、^{けっぱつひながた}結髪雛型、化粧道具などをポーラ文化研究所などから借用し、社会の変化と文化について解説しました。

成果指標



成果と課題・今後の取組等

展示見学者、連続講演会参加者からの感想で、身近な民俗文化の解説へのニーズを改めて確認しました。

展示内容を補う関連講座を4回開催いたしましたが、歴史的な深さ、世界からの視点など多くの市民が楽しめるものとなりました。

今後は見学者数を増やすため、PR方法など更なる検討を行います。

委員からの意見

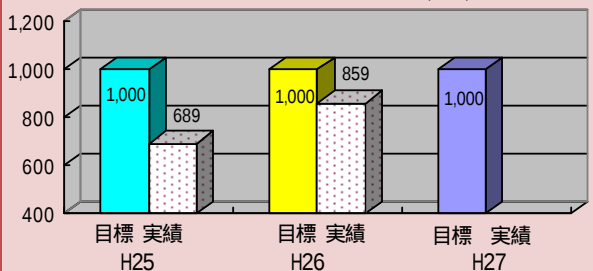
・調査や研究の結果を得た資料を展示・解説して、市民に郷土の歴史や文化などを伝えることは、意義深いことだと思います。今回の展示は、「化粧」という民族文化を扱いましたが、来館者数は昨年と比較すると少々減っているのが気になります。今後は、調査・研究を十分いかすとともに、市民のニーズに応じる展示・解説に努めていただきたいと思います。

・市民が厚木の歴史を知り、厚木という郷土を大切に、誇りに思えるような事業展開を望みます。

・郷土資料館は貴重な資料と知識の宝庫であります。その活用は来館者数だけの評価だけでなく、多様な視点における評価も必要だと思います。

ブックスタート事業【中央図書館】

	事業概要
	乳幼児の言葉と心を育むため、0歳児の保護者の方に、絵本やブックリストを手渡ししながら、乳幼児と周りの大人が触れ合うことの大切さや楽しさを伝えました。
	平成26年度実績
	実施回数 定期開催 43 回、予約開催 24 回 参加人数 859 人 実施場所 中央図書館・移動子育てサロン 公民館・保健センター アミューあつぎ8F 屋内広場 生涯学習出前講座

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
参加した乳幼児の人数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標</th><th>実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>H25</td><td>1,000</td><td>689</td></tr><tr><td>H26</td><td>1,000</td><td>859</td></tr><tr><td>H27</td><td>1,000</td><td>1,000</td></tr></tbody></table>	年度	目標	実績	H25	1,000	689	H26	1,000	859	H27	1,000	1,000	離乳食セミナーとタイアップした保健センターでの開催や子育て支援センターのあるアミュー 8 階屋内広場での開催などにより参加者が増加しました。 今後は、これまでの開催に加えて、毎月第3水曜日の「あつぎ家庭読書の日」に子育て支援センターにおいて、ブックスタートの定期開催とおはなし会を実施します。
年度	目標	実績											
H25	1,000	689											
H26	1,000	859											
H27	1,000	1,000											

委員からの意見

- ・絵本などを通して、大人と乳幼児が触れ合う体験を中央図書館、アミューあつぎなど各所で展開し、平成 25 年度実績より 25%増の成果をあげたことは評価できます。今後は、多くの乳幼児と親が参加しやすい環境づくりに努め、乳幼児の言葉と心を育んでいただきたいと思います。
- ・地道な活動になりますが、本に触れる大切さを伝え続けていただきたいと思います。
- ・活字離れが進む現状において、とても良い事業であります。種々の企画を展開して、参加者数も大幅に増加しており、高く評価できます。今後の取組(ブックスタートの定期開催とおはなし会)も大いに期待できると考えます。



事業概要

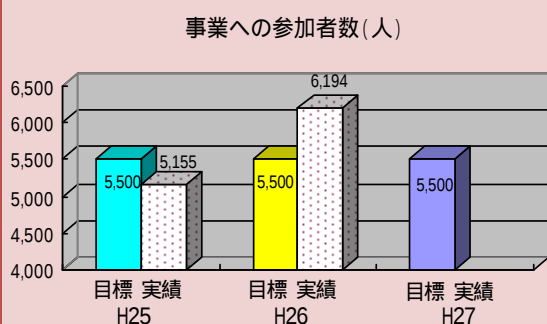
「読書大好きあつぎっ子」を育成するため、「あつぎ家庭読書の日」(毎月第3水曜日)を中心に、家庭での読み聞かせや親子読書活動の必要性について、周知に努めました。

また、市制60周年記念事業として、「子ども読書フェスティバル」と「あつぎのむかしむかし展示会&おはなし会」を開催し、読書の楽しさを体験していただくとともに、読書ボランティアへの支援と連携を進めました。

平成26年度実績

市制60周年記念カウントダウン事業として「子ども読書フェスティバル」を、市制60周年記念事業として「あつぎのむかしむかし展示会&おはなし会」を実施したことにより、定期的に行っている事業と合わせて目標値を上回る参加を得ることができました。

成果指標



成果と課題・今後の取組等

子どもや保護者を対象とした読書のきっかけづくりとなる諸行事及びボランティア育成のための講座を実施し、多数参加いただきました。

今後も、絵本ライブや図書館クイズラリー、おひざにだっこのおはなし会など、様々な行事を開催し、子ども読書活動のきっかけづくりに努めます。

なお、幼児・小学生・中学生などの対象別の推薦図書リストや読書通帳の配布による保護者や子どもへの啓発活動を行うとともに、読み聞かせ講座の開催やワークショップなどを通じて、読書ボランティアの育成・支援を実施します。

委員からの意見

・子どもと保護者を対象に、様々な場面を捉え、読書の楽しさを実感することができる活動が展開されて成果が出ています。また、読み聞かせ講座などの開催を通してボランティア育成がなされています。今後は、小・中学校での読書活動との連携を一層深め、「あつぎ家庭読書の日」に対応するなど、より充実した子ども読書活動を推進していただきたいと思います。

・子どもや保護者がどれだけ本を読むようになったか、数値で表せる事業ではないですが、今後も本に触れる大切さを伝え続けていただきたいと思います。

・子どものみならず、保護者も取り込んだこの事業は、読書の大切さを十分に伝えていると思います。今後の新しい取組も期待されます。



事業概要

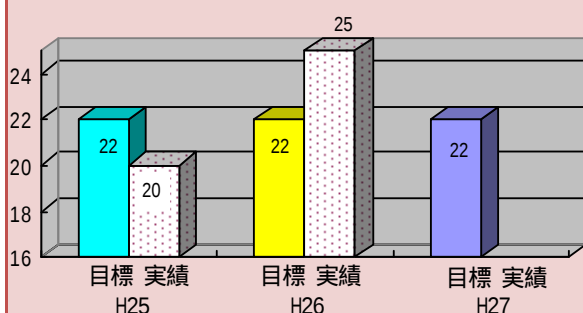
児童・生徒の食育に対する関心を高めるため、市立小学校の給食において月2回、中学校の給食において2ヶ月に1回程度「パクパクあつぎ産デー」として、地元の農産物を給食に使用しました。

平成26年度実績

小学校給食について、天候不順のため地場農産物の収穫が困難となり、学校により給食の食材として提供できない場合があります。しかし、市内全域と捉えて、実施が月2回程度できたことから、おおむね目標値に到達できました。【1校/月平均 2.2回】

成果指標

市立小学校23校での実施回数(回)



成果と課題・今後の取組等

今後も引き続き、小学校給食について月2回以上実施できるような体制を整え、中学校について、月1回以上実施できるよう定着させるとともに、地場農産物が提供可能な月は、可能な限り取り入れていきます。

また、津久井産在来種大豆の学校給食への導入に向け、厚木市農業協同組合や各学校調理場と調整を図ります。

委員からの意見

・学校給食への地場農産物の導入が積極的に行われ、実施回数が増加しているのは評価できます。「JAあつぎ」の事業計画の中に、学校給食に地場農畜産物の導入を進めることが謳われています。今後は、収穫量や出荷時期の問題などの難しさはありますが、生産者も給食での利用を期待していますので、JAと連携して取り組んでいただきたいと思います。

・提供などの課題はありますが、地域で育てられた農産物を給食に取り入れることで、児童・生徒の食育に対する関心が高まり、食べることの大切さや食物を大切にする気持ちが育てられると思いますので、可能な限り継続した事業展開を望みます。

・本事業については、ほぼ達成できており、児童・生徒が地元の食文化（郷土料理など）に興味を持ち、地域の農産物に触れる絶好の機会だと思います。また食育教育の観点からしても、本事業の継続と更なる充実を希望します。

・農業の収穫は天候などに左右され、供給者側は苦勞されていると聞きましたが、食育はとても大切な教育の一つだと思います。是非この事業を継続し、もっと学校教育の場で、食育に役立てていただきたいと思います。

【基本方針 2 に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○豊かな心と健やかな身体をはぐくむ教育を推進するための事業は、給食施設整備や地域と結んだ食材、医療・福祉と連携した教育相談やきめ細かな不登校対策、厚木市史や収蔵資料をいかした郷土の歴史や文化の展示や講座、0歳児や子どもを対象にした読書活動などが実施され効果を上げていると思います。児童・生徒の健全育成のためには、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を確実に果たすとともに、連携を深める必要があります。また、専門機関のもつ知見を積極的に取り入れ、対応にいかしていく必要があります。豊かな心と健やかな体を育むためには、食育や読書の充実とともに、人との関わりを重視した歴史・文化の学習や自然の不思議さにふれる活動などの充実を望みます。

基本方針 3 教職員の資質・能力と組織力の向上を通して、信頼される学校づくりを推進します。

3 -

先生のための研修事業【教育研究所】



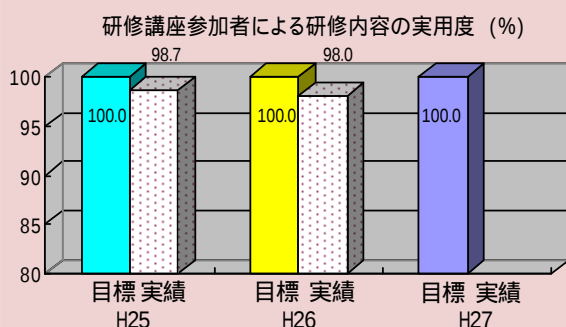
事業概要

教職員の指導力向上を支援するため、教育課題研修や教科指導研修、ICT活用研修などの各講座や、教育研究発表会・教育講演会を開催しました。

平成26年度実績

各種研修講座など開催数	19 回
参加教職員数	693 人(延べ 1,247 人)

成果指標



成果と課題・今後の取組等

教育研究発表会や各種の希望制研修などにより、教職員の意欲や資質の向上を図りました。経験年数にかかわらず、若手とベテランが学校間を越えた専門的な課題などを共に学ぶ場合は、とても活気があります。

今後も、教育課題への先進的な取組や参加率の向上を目指し、充実した事業を推進します。

委員からの意見

・教員にとって絶えず研修に励み、教育課題などに対応した指導力を磨くことはとても重要な事ですが、多忙化が進む中で不十分になりがちです。教育研究発表会や各種希望制研修が、教員のニーズにあった情報の収集や課題の解決に寄与していると思います。今後も、明日の指導に直結した内容や先進的な内容を取り上げるなど、一層の充実を図っていただきたいと思います。

・本事業は、各種研修講座などの開催が 19 回もあり、教職員の指導力向上、授業力のアップに非常に役立っていると感じています。土曜日開催でも多くの先生方が出席し、自分の力として身に付けようとしており、それだけに先生方のニーズに対応した魅力ある講座だと考えます。実績値も高いため、先生方の指導力向上に役立っていることを示しています。

ICT の研修会や教育研究会、講演会など先生方の資質向上を目指して、今後も更なる企画運営を望みます。

・教職員のスキルアップに、教職員自らが取り組むこの事業は、とても有意義であり、今後もより多くの教職員が参加できるように展開することを望みます。

教育調査研究部会運営事業【教育研究所】



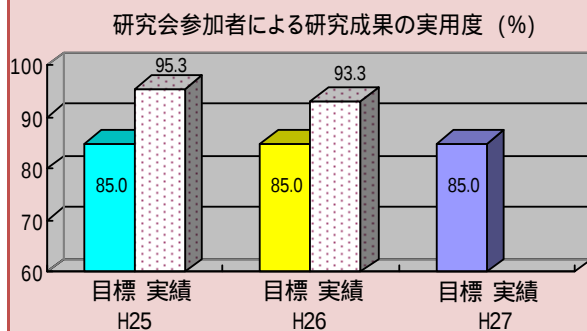
事業概要

教育の新たな動向や今日的な課題に対応するため、教職員や市民の方々などで構成する研究部会をテーマごとに設け、毎月1回部会を開き、課題解決に向けての調査研究や、教材・資料の作成を行いました。

平成26年度実績

教育調査研究部会	3部会設置・運営
部会開催延べ回数	36回(3部会合計)
研究に携わった教職員・市民	19人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

教育の場における様々な課題や新たな教育の動向について、具体的な方策を提起しました。

今後も、今日的課題などについて研究を積み重ね、研究成果を発信し、教職員の資質の向上を高めるため、事業を推進します。

委員からの意見

・教育調査研究部会においては、今日的な教育課題や新たな教育動向について取り上げ、研究員の教員が実践を通して、調査研究がなされ成果を上げています。今後は、研究の成果が市内全小・中学校に周知され、多くの教員の実践を通して、より高められるような配慮をお願いします。

	事業概要
	家庭・学校・地域社会における教育を支援するため、児童・生徒用の教材や研究紀要などを作成・提供し、教職員の実践をまとめた教育実践記録集の発行や、教育に関する資料の収集・提供も行いました。
	平成26年度実績
	・ 小学校社会科副読本・地形図 2,200 部発行 ・ 中学校社会科副読本・地形図 2,200 部発行 ・ 研究紀要 88・89 集 各 1,000 部発行 ・ 教育実践記録 41 集 300 部発行

成果と課題・今後の取組等

小・中学校社会科副読本の修正増刷を始め、日々の教育活動に効果的に活用できる教材、資料などの作成・収集・提供を行いました。

今後も、教職員の資質の向上を図るため、様々な教育的ニーズや今日的課題についての研究成果を発信していきます。

委員からの意見

・ 小・中学校の社会科副読本は、地域の歴史や現状を知る上で重要な資料だと思います。社会事象をより身近なところから取り上げていくことは、社会事象に対する興味関心を引き出すのに効果があると感じています。その他、効果的な教材、資料などの作成・収集・提供が行われていて頼もしい限りです。今後は、それらの有効な活用の仕方も含め、研究成果を発信していただきたいと思います。

【基本方針 3 に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○教職員の資質・能力と組織力の向上を通して、信頼される学校づくりを推進するための事業は、教育研究発表会や各種希望制研修が実施され、教員の満足度の高い内容になっています。また、調査研究部会では、新たな教育課題などについて教員自らが調査研究活動を進め、発表することで、教員の資質の向上に役立ったと思います。社会科副読本の修正や教材・資料などの作成・収集・提供により、正確で分かりやすい指導ができるようになったと思います。今後も、学校・教員のニーズを捉え、これらの事業を実施するとともに、学校の組織力を強固し、信頼される学校づくりにつながる研修などを取り入れた事業展開を望みます。

4 -

小学校校舎・体育館改修事業 中学校校舎・体育館改修事業

【学校施設課】



事業概要

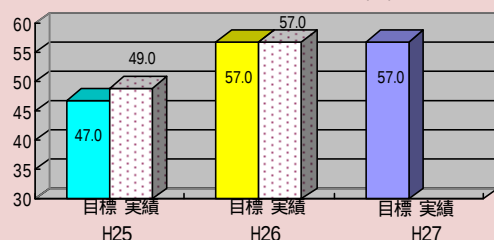
児童・生徒が安全で快適な教育環境の中で学校生活を送れるよう、校舎の外壁・屋上やトイレなどの改修工事を実施しました。

平成26年度実績

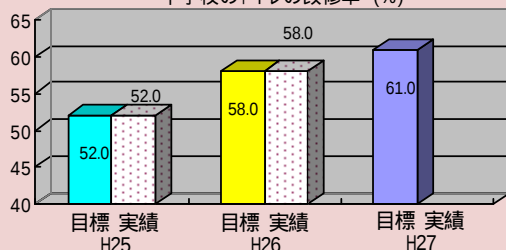
【校舎・トイレ改修】	厚木第二小、愛甲小 上荻野小、戸田小 林中、相川中
【外壁・屋上改修】	厚木小、三田小 厚木第二小、愛甲小 東名中
【屋上改修】	小鮎中
【体育館外壁・屋根改修】	厚木小、玉川小、 厚木第二小、緑ヶ丘小 戸室小、鳶尾小
【給水設備】	依知南小、清水小
【受変電設備改修】	東名中
【太陽光発電設備設置】	緑ヶ丘小

成果指標

小学校のトイレの改修率 (%)



中学校のトイレの改修率 (%)



成果と課題・今後の取組等

教育環境の向上及び安全の確保と施設の長寿命化を図ることができました。

今後も、計画的に施設改修工事を実施していきます。

委員からの意見

- ・トイレや外壁の改修工事を進めることによって、児童・生徒が快適な環境の中で学校生活を送れるようになっていきます。今後も、市全体の児童・生徒の学習環境改善のため、限られた予算の中での事業と思われますが、できるだけ早期の全棟改修を望みます。
- ・まだ、多くの小学校でトイレや体育館などの教育環境の整備が待たれています。今後も継続して、計画的に事業を推進していくことを望みます。

小学校教室冷暖房設備設置事業【学校施設課】



事業概要

快適な学習環境の整備を図るため、市立小学校の普通教室に冷暖房設備を設置しました。

平成26年度実績

【普通教室冷暖房設備設置】 玉川小、相川小
戸室小、愛甲小
森の里小、戸田小

成果と課題・今後の取組等

小学校6校の教育環境の向上を図ることができました。

今後2年間で、残りの小学校17校に計画的に導入を進めます。

委員からの意見

- ・昨今、夏季の暑さは厳しいものがあり、児童の学習に支障を来す事態となっています。中学校に引き続き、小学校普通教室への冷暖房設備の設置がなされたことは、評価します。今後は、残りの小学校17校へのできるだけ早期の設置に尽力いただきたいと思います。
- ・まだ、多くの小学校の教室に冷暖房設備が設置されていないので、継続して計画的に事業を推進していくことを強く望みます。

小学校校舎等整備事業【学校施設課】

	事業概要
	児童の快適な教育環境の確保を図るため、施設整備を要する校舎などの整備を実施しました。
	平成26年度実績
	・三田小学校グラウンド、付替道路用地取得の交渉及び契約 ・三田小学校体育館の移転に係る基本設計

成果と課題・今後の取組等

予定していた用地の契約及び基本設計が完了しました。

今後も、計画的に事務を進めます。

委員からの意見

・校舎や校庭の整備によって、児童の安全で快適な学校生活が確保されます。今後も、全市の学校環境の把握に努め、整備の実施にあたっては、学校の教育活動に支障を来さないよう、計画的な事業展開を期待しています。

・埋蔵文化財の調査のために、完成が遅れるようですが、教育環境整備は不可欠ですので、計画的に事業を推進していくことを強く望みます。

小学校校庭整備事業 中学校校庭整備事業

【学校施設課】



事業概要

児童・生徒が安全で快適な屋外施設環境の中で学校生活を送れるよう、校庭の整備または設計を実施しました。

平成26年度実績

森の里小学校グラウンドの整備工事及び森の里中学校グラウンドの改修設計を実施しました。

成果と課題・今後の取組等

教育環境の向上を図ることができました。

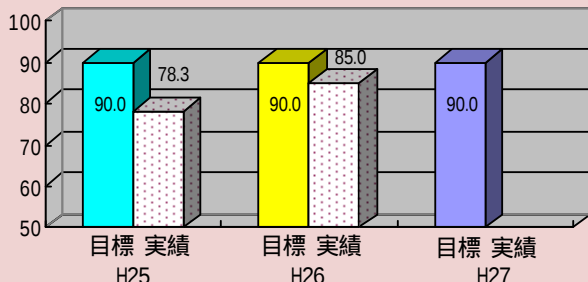
今後も、計画的に改修工事を実施します。

委員からの意見

・校舎や校庭の整備によって、児童・生徒の安全で快適な学校生活が確保されます。今後も、全市の学校環境の把握に努め、整備の実施に当たっては、学校の教育活動に支障を来さないよう、計画的な事業展開を期待しています。

・教育環境の整備の一つが予定通りに完了しました。今後も計画的に事業を推進していくことを望みます。

	事業概要
	児童・生徒が安心して登下校できるようにするため、防犯ブザーの配布や学童通学誘導員の配置などを行いました。
	平成26年度実績
・学童通学誘導員の配置 市内通学路8か所 ・防犯ブザーの配布 4,700個 ・児童の防犯ブザー携帯率 85.0% ・通学路注意看板の設置 11枚	

成果指標	成果と課題・今後の取組等												
児童の防犯ブザー携帯率（％）  <table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H25</td><td>90.0</td><td>78.3</td></tr><tr><td>H26</td><td>90.0</td><td>85.0</td></tr><tr><td>H27</td><td>90.0</td><td>90.0</td></tr></tbody></table>	年度	目標 (%)	実績 (%)	H25	90.0	78.3	H26	90.0	85.0	H27	90.0	90.0	学童通学誘導員については、市内小学校通学路計8箇所に配置し、防犯ブザーについては、ケータイSOSネットでの呼び掛けや、学校を通じた指導などの対策を講じて携帯率を向上させていきます。
年度	目標 (%)	実績 (%)											
H25	90.0	78.3											
H26	90.0	85.0											
H27	90.0	90.0											

委員からの意見

- ・学童通学誘導員の配置や防犯ブザーの配布など、児童の登下校の安全確保のため手厚い支援が行われていると感じます。防犯ブザーについては、携帯率が上がっていますが、必要時に機能しない状況が心配されます。今後は、防犯ブザーの使い方やメンテナンスの仕方を定期的に指導していく必要があると思います。
- ・中学校でも防犯ブザーを配布していただきましたが、事件事故の未然防止のためにも保護者にも防犯ブザー携帯の周知を図っていただきたいと思います。
- ・児童の防犯ブザー携帯率は、目標値に達していないので、今後も継続して事業を推進していくことを望みます。

高等学校等修学旅行費支援金【学校教育課】



事業概要

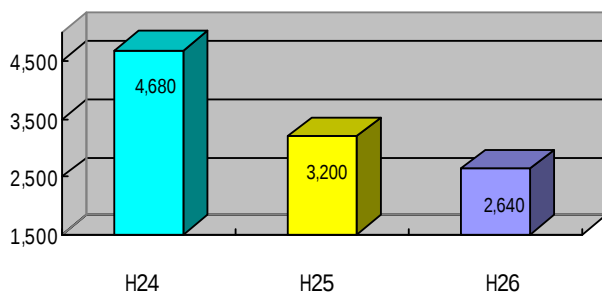
経済的な理由により修学旅行に参加することが困難な生徒又はその保護者に、経費の一部を支給しました。

平成26年度実績

認定者 132 人
支給額 264 万円

過去3年の実績

支給補助額(千円)



成果と課題・今後の取組等

経済的な理由で修学旅行への参加が難しい生徒やその保護者に対し、修学旅行費の一部を支給することにより、生涯の思い出づくりをサポートし、生徒たちの学校生活の充実につなげることができたと考えます。

平成26年度から、国の高等学校等就学支援金制度が拡充され、要保護世帯に対し、修学旅行費の給付が開始されたことに伴い、平成27年度からは要保護世帯を対象から外しております。

委員からの意見

- ・保護者・生徒にとって大変ありがたい事業です。経済的に困難であるものの、支給基準に満たない家庭の支援のために継続した事業を望みます。
- ・経済的な理由で修学旅行に行けない132人の生徒を支援できたことは、喜ばしいことです。継続することを望みます。

要保護及び準要保護児童就学援助事業(小学校)

要保護及び準要保護生徒就学援助事業(中学校)【学校教育課】



事業概要

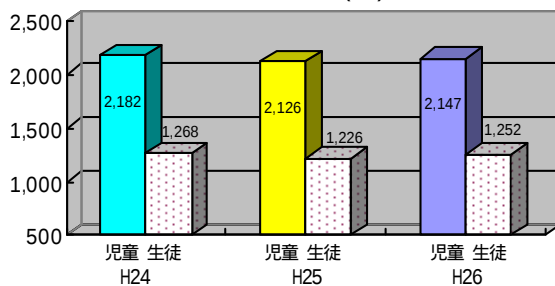
教育の機会均等を図るため、経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給しました。

平成26年度実績

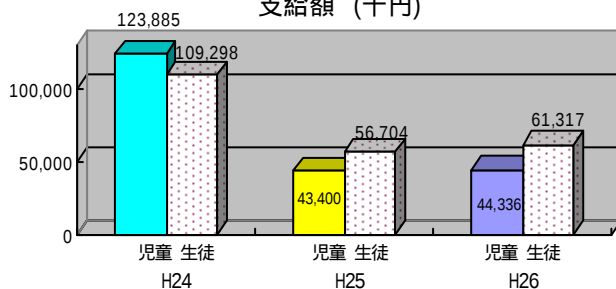
【小学校】支給者数	準要保護者	2,044 人
	要保護者	103 人
	支給額	44,335,813 円
【中学校】支給者数	準要保護者	1,205 人
	要保護者	47 人
	支給額	61,316,728 円

過去3年の実績

支給者数 (人)



支給額 (千円)



成果と課題・今後の取組等

経済的な理由で就学が困難な児童・生徒の保護者に対して、学用品費などを支給することにより、教育の機会均等を図ることができました。

今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

委員からの意見

・経済的な理由で就学が困難な児童・生徒に対して、学用品費などを支給することは教育の機会均等の視点から必要なことと思います。厳しい財政状態の中とは思いますが、今後も継続して支援していく必要があると考えます。

・3,000 人を超える児童・生徒が、この事業の支援を受けて、就学の機会を得ています。とても有意義な事業であり、高く評価できます。是非とも継続していただきたい事業です。

小学校特別支援学級等就学奨励事業 中学校特別支援学級就学奨励事業

【学校教育課】



事業概要

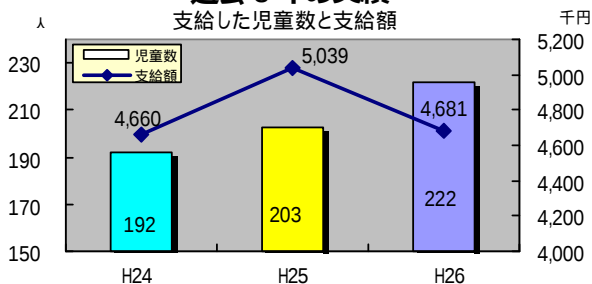
教育の機会均等を図るため、特別支援学級等に就学する児童・生徒の保護者に、学用品費などの経費の一部を支給しました。

平成26年度実績

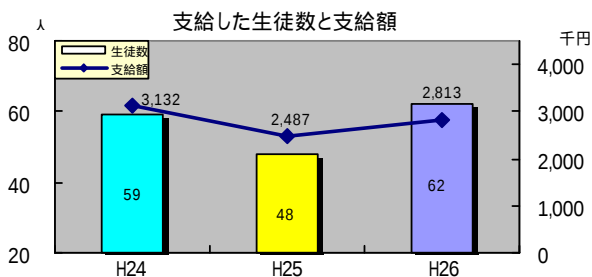
特別支援学級通級者(児童)	160 人
特別支援学級通級者(生徒)	62 人
ことばの教室通級者	62 人
支給額(児童)	2,812,997 円
支給額(生徒)	4,681,448 円

過去3年の実績

支給した児童数と支給額



支給した生徒数と支給額



成果と課題・今後の取組等

保護者の経済的負担が軽減できたとともに、教育環境の水準を維持できたと考えます。

また、今後も継続的な支援をしていく必要があると考えます。

委員からの意見

・児童・生徒が特別支援学級へ就学する際には、通常級より経済的負担が重いと聞いています。本事業により、学用品費などの経費の一部が支給され、保護者の経済的負担を軽減することができたと思います。今後も、引き続き支援を望みます。

・特別支援学級やことばの教室で学ぶ児童を経済的に支援しています。今後も是非とも継続していただきたい事業です。

・中学校特別支援学級で学ぶ生徒を経済的に支援し、教育環境の水準を維持しています。今後も是非とも継続していただきたい事業です。

	事業概要				
	特別な支援を必要とする児童・生徒の適切な就学相談、就学指導を行うため、「厚木市心身障害児就学指導委員会」を運営し、特別支援教育の充実を図りました。				
	平成26年度実績				
<table> <tr> <td>就学相談</td> <td>年間4回</td> </tr> <tr> <td>就学指導委員会</td> <td>年間5回</td> </tr> </table>	就学相談	年間4回	就学指導委員会	年間5回	
就学相談	年間4回				
就学指導委員会	年間5回				

成果と課題・今後の取組等

就学相談及び心身障害児就学指導委員会を開催し、特別な支援を必要とする児童・生徒一人一人の障がいの種類や程度、能力、適性などを的確に判断し、保護者の意見や、教育・医学・心理学などの専門的な見地からの意見を踏まえ、きめ細かな就学相談・就学指導を実施しました。

今後も、各学校において特別な支援を必要とする児童・生徒が増加していく中で、個々の状況やニーズに応じて適切な指導を受けられる環境を整備するため、事業を継続していきます。

委員からの意見

・特別な支援を必要とする児童・生徒の就学については、一人一人の特性を的確に見極め、望ましい就学を導くため、就学相談や就学指導委員会を通して、保護者の意見や専門的知見を踏まえ、きめ細かな相談・指導がなされています。今後も児童・生徒一人一人の将来を念頭に置き、保護者を始め様々な立場の考えを取り入れながら、本事業を継続していただきたいと思います。

・心身障害児就学指導委員会の一層の活躍が期待されます。そのことによって、特別な支援を必要とするより多くの児童・生徒が適切な指導を受けられることになります。

特別支援教育推進事業【学校教育課】



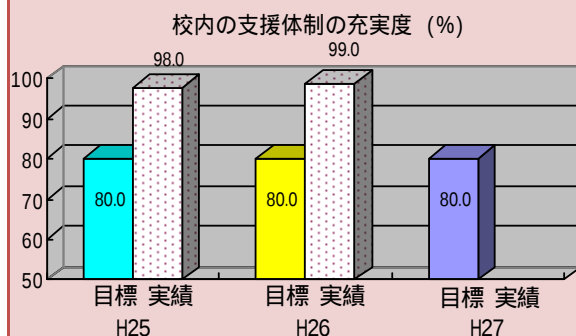
事業概要

特別な支援を必要とする児童・生徒に対して適切な支援・指導などの充実を図るため、総合的な支援体制を整備しました。

平成26年度実績

市立小学校巡回相談員派遣回数	35 回
特別支援教育介助員派遣人数 (市立小・中学校 28 校)	79 人
神奈川県立伊勢原養護学校通学送迎人数	14 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

特別支援教育推進事業については、児童・生徒一人一人の教育的ニーズに沿った適切な教育環境を整えていくことが課題です。介助員の確保による校内支援体制の充実を図るため、現在の介助員への継続依頼に加え、市のホームページなどを活用するなどの人材の確保に努めます。

巡回相談事業は、青少年教育相談センターに移管し、さらに多様化するケースに対応できるよう改善しました。

なお、伊勢原養護学校への送迎バスは、神奈川県が運行を開始したため、平成26年7月をもって終了しております。

委員からの意見

・特別な支援を必要とする児童・生徒一人一人の状況にあった教育環境の整備に向け、巡回相談員や特別支援教育介助員の派遣が行われ、校内の支援体制の充実度が99%に達しています。介助員の存在は、児童・生徒の活動を広げるものと思います。心身ともに健康な介助員を確保し、より充実した支援ができるようにしていただきたいと思います。

・特別な支援を必要とする児童・生徒の個々の状況に合わせた対応は大変な事業ではありますが支援を必要とする児童・生徒も他の児童・生徒と同じ環境で教育を受けられることは、他の児童・生徒の心の成長にもつながると思います。課題は大きいですが、継続した事業展開を望みます。



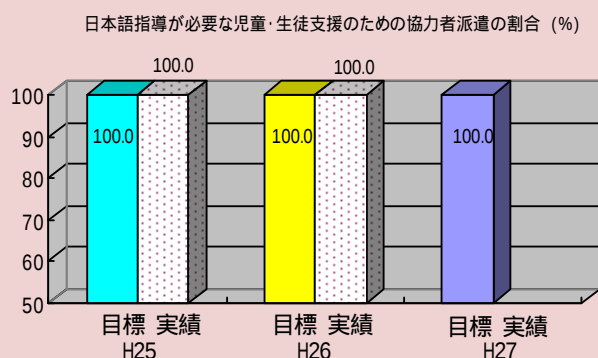
事業概要

日本語の理解が十分ではない児童・生徒への指導や支援を行うため、日本語指導協力者などを派遣しました。

平成26年度実績

派遣校 市立小学校 14 校、中学校 6 校
派遣人数 15 人

成果指標



成果と課題・今後の取組等

現在、8 言語に対応するために外国籍の児童・生徒に対応できる人材を確保していますが、今後は言語のみならず、対象となる児童・生徒が増加することが予想されるので、人材の確保が難しくなっている状況です。

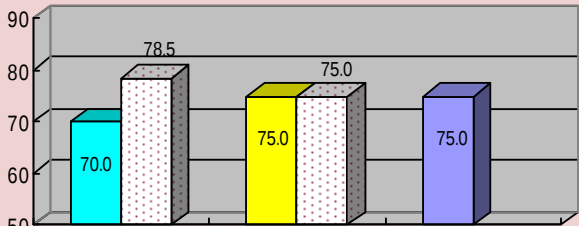
現在の日本語指導協力者への継続依頼や、紹介による人材の確保を図るとともに、現在の人員でも対応できるようなシフトを学校と相談しながら進めていきます。

委員からの意見

・日本語の理解が十分ではない子にとって、母国語でコミュニケーションがとれる人がいることは大変心強く、日本語指導協力者と話すことで、学習面や生活面での不安を解消することができると思います。言語も様々で、人材確保も厳しい状況があると聞きますが、今後とも継続した支援を希望します。

・日本語指導協力者の派遣を必要とする小・中学校が増える中、協力者の確保が課題になっています。人材確保に対する工夫を強く望みます。

	事業概要
	児童・生徒の問題行動を解決するため、関係機関などと連携してプロジェクトチームを組織し、一人一人に適した対応を図りました。
	平成26年度実績
市立小・中学校への定期訪問（学期に1回程度） プロジェクト会議 年8回開催	

成果指標	成果と課題・今後の取組等								
問題行動が解消・改善した割合（％）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>問題行動が解消・改善した割合（％）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>75.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	問題行動が解消・改善した割合（％）	H25	70.0	H26	75.0	H27	75.0	学校だけで解決することが難しい事案は、問題行動を起こす児童・生徒への対応のみならず、家族全体を支える必要があり、小・中を超えた連携で継続的に関わる必要があります。特に小学校のプロジェクトチームにも強化を図ることで、多様化する家庭環境に早い段階から関わるができるよう努めます。 また、定期的な学校訪問を継続し、いじめの未然防止・早期発見に焦点を当てた指導・助言に取り組むとともに、「厚木市いじめ防止基本方針」やそれに係る附属機関を条例で定めたことより、重大事態が発生した時への備えを整えていきます。
年度	問題行動が解消・改善した割合（％）								
H25	70.0								
H26	75.0								
H27	75.0								

委員からの意見

・児童・生徒の問題行動は、その根の部分で複雑に絡み合った状態にある事案が増えているという印象があります。解決のためには、小・中学校や関係機関が連携を強化し、家庭を支えていくことが必要になります。今後も、定期訪問による情報収集と指導、プロジェクト会議による多様な知見などを基に、より良い解決ができるように努めていただきたいと思います。

	事業概要
	中心市街地の公共施設再配置計画に基づき、厚木南公民館の新築移転に向けた基本・実施設計及び建設予定地である勤労福祉センターの解体を実施しました。
	平成26年度実績
厚木南公民館の基本・実施設計 勤労福祉センターの解体	

成果と課題・今後の取組等

厚木南公民館の基本・実施設計が予定通り完了しました。
 今後は基礎工事・本体工事を実施します。

委員からの意見

事業が計画通りに進行しています。今後も計画通りに進展することを望みます。

【基本方針 4 に対する点検・評価委員からの総括的意見】

○課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図るための事業では、校舎・体育館・校庭の改修や小学校教室冷暖房設備の設置、各種の経費支給による教育の機会均等の確保が計画的に実施されています。また、専門的知見を取り入れたきめ細かな就学相談・就学指導、巡回指導員や介助員の派遣による学校支援体制の充実により、一人一人の状況やニーズに合った特別支援教育が推進されています。外国籍の子に対する日本語指導協力者の派遣や問題行動に対する専門機関との連携は、関係する児童・生徒の成長のために欠かせないことです。今後も、児童・生徒に関わる様々な課題に対して、迅速にかつ計画的に取り組むとともに、関係諸機関との連携協力関係を密にして、事業を展開していただきたいと思います。

○課題やニーズに対応した教育環境の整備は 17 事業もあり、児童・生徒のために学習しやすい好環境づくりに努めていると思います。校舎・体育館の整備、トイレの改修、小学校冷暖房設置、校庭整備などの計画的な施設整備や、支援金、援助事業費、奨励事業費、推進事業費などの経費の支援など保護者や児童・生徒にとっては、気付きにくい事業ですが重要でかつ安全性に配慮した評価の高い事業であり、今後も継続を望みます。